

就職差別の解消をめざして

< 中学校 >

目的 就職差別の問題を通して、解決に向けた様々な努力がなされたことを理解し、自ら差別をなくしていくために何ができるかを考える。

<気づく> 就職の条件って何だろう

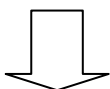
- ・「あなたが就職するなら」
- ・「あなたが社長なら」

就職希望者と雇用者の考えている就職の条件の違いについて考え、それぞれの立場による考えの違いや就職にあたって何を大切にすべきかを考える。

就職希望者
「就職するなら何をポイントにおいて決めたいか」

雇用者
「社長なら何をポイントに採用したいか」

それぞれの上位の意見を整理する
<ランキング>



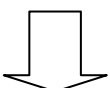
<広げる深める 1> 働きたいのに

～就職試験の面接でこんなこと聞かれたら～

雇用者と就職希望者に分かれた面接の疑似体験を通して、採用選考時にみられる不合理に対して鋭い目を向ける。

面接試験の質問項目

面接の疑似体験(両方の立場になって)

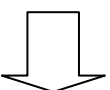


<広げる深める 2> 社用紙の問題点を明らかにしよう

～社用紙のここがへんだなあ～

社用紙には、個人のプライバシーに関する必要のない情報や差別につながる質問が含まれていたことや、自分の能力や適性と関係のない部分で採用が決められていたことの不合理性に気づく。

社用紙



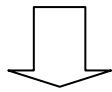
<計画し、実践する>

社用紙はどう変わったのだろう

～諸外国の履歴書、現在の統一応募用紙などと比較して～

社用紙の不合理性や問題点が改善されたことを通して、それにかかわってきた人々の思いや、解決のための努力がなされてきたことを実感する。

諸外国の履歴書
統一応募用紙



<振り返る>

資料「わたしを変えたもの」から学ぶ

～差別意識解消の取り組みに学ぶ～

社会の中で部落差別が残されてきたことを知り、その不合理性に気づき自ら差別をなくしていくために何ができるかを考える。

資料
「わたしを変えたもの」
(県教委:かがやき(中学校))



【学習を進めるにあたって】

・滋賀県進路保障推進協議会の取り組みともかかわらせて、現在の採用選考の状況等についての学習と関連させることができる。

・模擬面接を行ったり、社用紙を活用するなど、体験的な活動と組み合わせることで、学習効果を上げることができる。